

慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resources

Title	編集後記
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学大学院法務研究科
Publication year	2004
Jtitle	慶應法学 (Keio law journal). No.1 (2004. 12) ,p.416-
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA1203413X-20041215-0416

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

法科大学院は、研究機関としてよりも教育機関として期待されているというのが、偽らざる現状である。しかし、研究のない教育ほど脆弱なものはない（実務も研究の一貫）。実務をしない実務家教員がありえないのと同様に、研究をしない研究者教員もありえない。「見よ精鋭の集う処」という「若き血」の一節にふさわしい、一流の研究者（勿論学生もである）を集めた本塾法務研究科は、独立した研究機関誌を創刊し、教員に研究発表の場を提供するのは当然である。教員を一新した本塾法務研究科には、新しい慶應義塾大学の姿があり（「若き血」には「勝利に進む我が力常に新らし」ともある）新司法試験の実績を残すことも当然であるが、研究機関としての名声の高いものでなければならぬと思っている。また、研究者教員のみならず、実務家教員に研究発表の場を提供することも目的としており、実務家教員による論稿も大いに歓迎している。

当座は教員による論稿から一步を踏み出すが、この慶應法学は、将来的には、学生の投稿を受け入れていき、研究能力も備えた法曹が本塾大学院から巣立つこともサポートしたい（学生、卒業生には「烈日の意気高らかに遮る雲なきを」とあってもらいたい）。彼ら・彼女らにはいつか母校に戻って教鞭をとってもらいたい。更には卒業生が法曹になってから投稿ができるようなものにできたらとも夢は広がっていく。

本音をいうと、創刊号については、ロースクール元年、手探りでの授業を迫られる教員、とりわけ必修科目の教員にとり、十分な研究時間がなく原稿が集まるか不安であった（創刊号で廃刊ではないかという冗談もいわれた）。ところが、幸いなことにそれは杞憂にすぎず、予想を超える論稿が集まっており、質量ともに創刊号の船出としては成功といえよう。「慶應法学」という名は、編集委員の一人である鈴木氏の発案であり、多少の味気なさはないではないが（学生だけの機関誌であれば「慶應法学『若き血』」とでもしたいところである）単純明快な名称であり、反対なく決まったものである。

最後になったが、研究・教育という両輪において優れた法科大学院として本塾法務研究科が無事に発展していくことを願うと共に、研究をサポートする役割を發揮するものとして、この慶應法学が発展・充実していくことを願いたい。

（編集委員を代表して 委員長 平野裕之）